

< 読者投稿 >

「鶴ヶ島市議 飲酒暴力事件を読んで…」

5月21日付け貴紙ホームページの飲酒暴力事件の記事を読み、驚きを禁じ得なかったと同時に内野嘉広議員の居直り発言には、只々呆れるばかりというのが正直な実感である。それは、内野嘉広議員による暴力そのものの行為と、その暴力を振るった内野嘉広議員に対する当時の所属会派幹部議員の一連の動きに、内野嘉広議員に向けての甘さが垣間見える。

その内容について、ここでは一々触れるつもりは無い。ただひとつ言えることは、公人たる一議員が公的な場面であれ私的な場面であれ、民主主義社会を真っ向から否定する暴力に及んだこと自体が大きな問題なのである。

暴力と言えば思い起こされるのが、インド独立の父と言われているマハトマ・ガンジーである。非暴力、非服従を提唱した彼の生涯の行動は、その後のインド独立の原動力となり、彼の行動が世界中に大きな影響を与えたことは、周知の事実である。それ故、今の社会において改めて、ガンジーの生涯の行動が燦然と輝きを放っているのである。

最近において、鶴ヶ島市議会は議会報告会を開くなど、それなりに市民に寄り添う形で分かり易く、議会活動の報告会を行ってきた経緯があった。

議員ひとり一人が開かれた議会を目指して弛まぬ努力をしてきたことは、鶴ヶ島市民の一人として素直に認めたい。しかしながら、今回、明らかになった件で鶴ヶ島市議会の信頼は地に落ち、鶴ヶ島市民への信頼は大きく失墜した。

これまで行ってきた議会活動の全ての努力は、正に水泡に帰してしまったと言わざるを得まい。それだけこの事は、重大な一件なのである。それとともに、これだけの事件を公にしなかったことは、暴力議員を今日まで野放しにしておいたことになる。

貴紙の記事を拝読して会派幹部議員の立場、その気持ちは無理からぬものはあるものの、反省なき無作法な議員と呼ぶに価しないチンピラに等しい男の暴力行為を公表しなかった「会派幹部議員の責任」は重いと言わねばならない。大曾根英明議員も自宅へ内野議員らを招き、大酒を吞ませた行為の責任も問われるべきだ。今更言うまでもない。

こうした暴挙は、民主主義社会に対する挑戦であり、鶴ヶ島市議会はこの一件を一議員の不祥事として止どめてはならない。と同時に議員は、選挙で一票を投じた有権者ひとり一人の尊い思いや願いが込められていることを忘れてはなるまい。鶴ヶ島市議会議員全員が内野嘉広議員の暴力事件を真摯に受け止め、議員としての矜持を持って内野嘉広議員に対して即刻議会より追放宣告をすべきである。そして、こうした暴力行為が二度と起きないように信頼回復に努めるべきである。

鶴ヶ島市民読者より